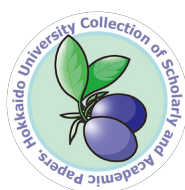




HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭対談：北海道大学ピア・サポートによせる想い
Author(s)	大畑，昇；岡本，健
Description	1. 《巻頭対談》大畑昇×岡本健：北海道大学ピア・サポートによせる想い
Relation	北海道大学ピア・サポート活動報告書（平成22年度版）pp. 1-4
Issue Date	2011-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45442
Type	report
File Information	01.pdf



1.《巻頭対談》

北海道大学ピア・サポートによる思い

1. ≪巻頭対談≫大畑昇¹×岡本健²

北海道大学ピア・サポートによせる想い

ここでは、ピア・サポート室の生みの親である、大畑昇先生から、ピア・サポート室設立の経緯や、ピア・サポートによせる想い、そして、期待などをうかがった記録を、ピア・サポーター初代代表の岡本が整理した。

1. 1. 北海道大学ピア・サポートの設立経緯

岡本：先生、こんにちは。今日はわざわざお時間を取っていただき、ありがとうございます。色々とお教えていただけるのを楽しみに参りました。

大畑：こんにちは。こちらこそ、ありがとう。話ができるのを楽しみにしていました。

岡本：おかげさまで、我々ピア・サポート一同、日々、楽しく活発に活動させていただいています。北大にピア・サポートを作っていただいたことに、まず感謝申し上げます。ありがとうございました。

大畑：いやいや、君たち学生メンバーが本当に一生懸命やってくれていて、私も嬉しいですよ。この調子でがんばってくださいね。

岡本：ありがとうございます。今後も頑張ってまいりたいと思います。さて、今回大畑先生にお時間をいただいたのは、北大ピア・サポート初の報告書を作成するにあたりまして、ピア・サポートの生みの親である大畑先生の想いや期待などを伺うためです。私たちはさまざまな活動をさせていただいておりますが、いつもメンバーの中でピア・サポーターはどのような組織か、ということをお互いに自問自答しています。核心部分では無いところで議論をしてしまい、方向性がぶれてしまえば意味がありません。そういった時に、大畑先生の想いをここに記録させていただき、メンバーが迷った時に原点回帰させていただけると良いなと思ひまして、本日伺いました。

まずは、北海道大学にピア・サポートを作ろうとされたきっかけや経緯などを教えてくださいませんか？

¹ 北海道大学大学院 歯学研究科 教授

² 北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻 博士後期課程

大畑：あれは、4年ほど前だろうか、文部科学省の学生支援 GP の募集がありました。その時に、学生を支援する新しい企画として、考え始めたのが最初のきっかけだったと思います。私が特に重要だと思っていたのは、学生が学生を支援することと、その時にボランティアではなく、きちんと手当を出せるようにすることでした。さらに、ただ学生さんに任せて野放し、というわけではなく、ちゃんとした体制を組むということもとても大切なことだと考えていました。

岡本：なるほど、現在の北大ピア・サポートの基本的な枠組みは、すでに数年前に考えられていたわけですね。

大畑：そうですね。その時は、色々な事情でうまく実現できなかったのだけれど、学生相談室長が近久先生になって、もう一度挑戦して、ようやく実現できました。その時に参考にした先行事例としては、名古屋工業大学、岩手大学、広島大学などでしたが、これら大学の取組みは、基本的には勉強を教えるサポートでした。それも大変重要な取組みではあるけれど、北大では、インターカー的な役割を担う形で実施できればと考えました。

岡本：インターカーというと、相談の際に、最初に学生さんの話を聞き、どういう形でサポートするのかを決定するような立場ということでしょうか？

大畑：その通りですね。学生相談室では、垣根が高いことがあるのではないかと考えてね。上級生がいて、なんでも相談できる部屋があれば、インターカーの役割を果たしてくれて、教員と学生の架け橋になってくれると考えたんですよ。

岡本：なるほど。先生と学生の架け橋の役割をご期待いただいているというのは、私たちもきっちりと自覚していきたいところです。

1. 2. オレゴン州立大学での経験

岡本：このようなピア・サポートのシステムを思い描かれたきっかけや、先生のご経験はおありですか？

大畑：そうだねえ。オレゴン州立大学にいた時の経験が大きいと思いますね。オレゴン州立大学は、研究・臨床・教育の中でも教育に非常に力を注いでいる大学でね。上級生が下級生を世話している様子や、学生が主体的に動いている様子がたくさん見られました。

岡本：それは、例えば、どういった形で見られるのですか？

大畑：例えば、上級生が学内の書店でアルバイトをしていて、下級生が書籍を求めて訪れた時に、色々と教えている様子が見られました。それに、学生が主体で、他大学の先生や実際に臨床家として活躍されている先生を呼んできて、セミナーを開催するといった具合ですね。

岡本：なるほど。上級生が学内の書店でアルバイトをしていて、そこでコミュニケーシ

ョンを取っていくというのは、我々のイベント「本活」にも取り入れることができますね。大変参考になります。また、学生が主体となって、セミナーを開催する、というのも良いですね。セミナーの開催の仕方なども学べますし、社会人としての基礎的な力を身につけるのに大変良いように思います。

大畑：それに、クラス担任制度もとてもしっかりしていて、クラスでハイキングやバーベキューパーティーをするという場面も見られましたね。それに、先ほどの学生が企画したセミナーに、教員も自主的に参加していました。自由な議論が出来る雰囲気、大変気持ちの良いものでした。大学生というのは良いですよ。とても自由ですから。私も教員をやっていて、学生と一緒にいられる、というのが本当に楽しいです。

岡本：私も大学教員を目指していますが、先生のように学生と関われる教員になりたいです。自由さをいかに引き出すかが重要なんですね。また、教員と学生の関係が、そのように円滑であるというのは素晴らしいと感じます。

オレゴン州立大学は教育にかなり注力しているというお話でしたが、社会教育的な観点で、大学の外との関係などはどのような形でなされているのでしょうか？

大畑：これがまた面白い取組みをされていてね。学生が小学生や市民に対してマンツーマンで大学や研究を案内するようなことが、カリキュラムの中に取り入れられていた。これも、学生が非常に主体的に取り組んでいて、どのようにガイドするか、どうすれば分かりやすく伝えられるか、といったことについて創意工夫して行っていました。

岡本：人に説明する、という経験は臨床家として非常に重要でしょうね。

大畑：そうです。そして、評価の仕方がまた面白い。岡本君、この評価は誰がすると思いますか？

岡本：カリキュラムに入っていて単位化されているということは、やはり教員が評価をするのではないのでしょうか。

大畑：普通はそうだね。でも、この取組みの場合は、小学生や市民に評価をしてもらうんだよ。

岡本：それは良いですね！利用者に資することが重要ですね。オレゴン州立大学のお話、とても面白いです。先生がピア・サポートを作ろうと思われた原点を知ることができ、感慨深いものがあります。また、北大のピア・サポートに取り入れられるアイデアもたくさんいただきました。ありがとうございました！

1. 3. 北大ピア・サポートへの期待

岡本：色々とためになるお話を伺っていると、だんだん、先生を一人占めしているのが申し訳なくなってきました（笑）。今度ぜひ、先生のご経験を現ピア・サポートメンバーに語っていただきたいです。ご多忙のこととは存じますが、是非よろしくお願い致します。

大畑：もちろん喜んでお話をさせていただきますよ。

岡本：ありがとうございます！さて、ここで最後に、北大ピア・サポートにどのような期待をしておられるかについて、お聞かせ願えますか？

大畑：そうですね。やはり、学生同士の関わりが密なほうが、未来は明るいと思うのです。ですから、ピア・サポーターの皆さんには、ピア・サポーターの中での関係はもちろんのこと、大学全体の学生同士の関わりを密にしていくような取り組みをしていただけだと期待しています。これについては、色々とイベントなどをやっているのです、今後も継続して色々創意工夫してくれればと思います。

さらに、加えるなら、今は新入生中心にピア・サポートを展開している状況かと思いますが、部局ごとの、つまり、学部に進んでからのピア・サポートもあると良いと思いますね。そうすれば、同じ学部同士の学生の交流が進むでしょう。学年を超えてね。そして、それができれば、さらに違った学部の学生同士の交流を推進するような取り組みもできるのではないかと思いますね。私自身のことを考えても、他学部の方と交流すると、新たな物の見方を得ることができるので、とても貴重な機会になりました。学部、学年を飛び越えて、学生同士の関わりを密にしてほしい。是非そういったことに取り組んでいただきたいですね。

岡本：ありがとうございます。私は大学院で博士後期課程ですが、院生も悩むことが多く、他の学部の院生や他大学の院生との交流でそういった悩みを解決することも多くあります。大畑先生のご指摘は院生についてもあてはまりますね。そう考えると、今後とても広く展開していける可能性がありますね。まだまだやることがたくさんあって、今後の展開が自分でも楽しみになってきました。本日はご多忙のところ、お時間をいただきまして、ありがとうございました！

大畑：こちらこそ、大変楽しい時間でした。今後も自由にごんばってくださいね。